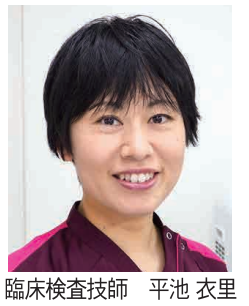
医療最前線

新型コロナウイルス感染症と検査②



臨床検査技師　平池 衣里

もしも感染を疑う症状がある場合には、帰国者・接触者外来等に紹介され、検体（検査の対象となる材料：痰、唾液、鼻咽頭拭い液など）を採取して、検査をするという流れになっています【図1】。

新型コロナウイルスの遺伝子を検出する方法で、少ないウイルス量でも検出できる精度の高い検査です。痰、唾液、鼻咽頭を拭って検査します。精度が高い半面、検査の所要時間が1～5時間程度と比較的長めになります。また、検査には特殊な設備や機械が必要となり、検査できる所が限られてしまいます。

精度が高い検査ではありますが、感染のごく初期で体内のウイルス量が非常に少ない場合や、検体がきちんと採取できていない場合など、陰性と判断されてしまうことがあります。こうしたことから、「陰性＝100％感染していない」とは言い切れません。

・抗原検査

抗原検査は、ウイルスの一部を構成するたんぱく質を検出する方法で、検査キットを用いる定性検査（陰性か陽性かが分かる）と定量検査（結果が数値で分かる）があります。

定性検査は、インフルエンザウイルスの検査と同様にキットを用いて検査するので、特殊な機械が不要であり、検査結果も約30分という短時間で出ると言っているか、などがポイントになります。検査の使い分けや結果の解釈は【図2】、【図3】を参照ください。

◆新型コロナウイルス感染症の治療

現段階（令和2年10月末）では新型コロナウイルスの治療薬は研究段階にあり、他の疾患で使用されているウイルスの増殖を抑える薬や炎症を抑える薬を使って治療が行われています。

最近のニュースでは、「富士フイルム富山化学、アビガンを厚生労働省に承認申請」、「WHO、コロナ入院患者にレムデシビルなど4薬効果なし」、「米FDA、レムデシビルを承認 新型ウイルス治療薬として初」などの動きが報道されています。「これを使用すれば大丈夫」という薬の開発が待ち遠しいです。

今回、新型コロナウイルス感染症について記事を書かせていただきましたが、ウイルスについて分かっていることがこの先も増えていき、それに伴い、検査、治療、診療も変化していくことが見込まれます。厚生労働省のホームページには一般の方にもわかりやすい記載がたくさんあり、情報の更新も頻繁です。ぜひ参考になさってください。

〈梶川病院（広島市西区天満町）臨床検査技師　平池衣里〉

◆新型コロナウイルス感染症の検査

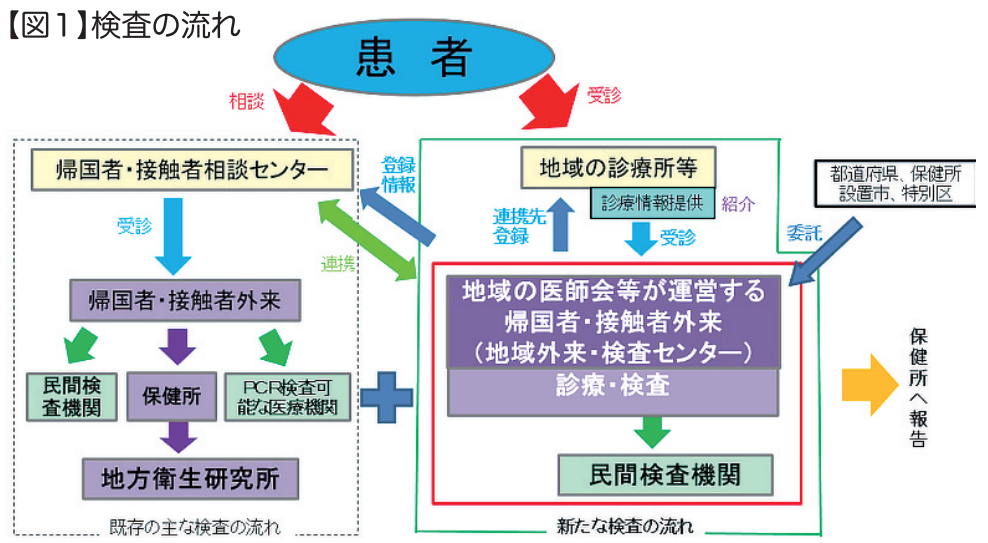
新型コロナウイルスへの感染を診断するための検査には、PCR検査と抗原検査があり、さらにそれ以外の補助的な検査として、胸部CT検査や血液検査があります。

島市は各保健センター）に電話でお問い合わせください。かかりつけ医がある場合も、いきなり受診せず、まず電話でお問い合わせください。お問い合わせの内容から、あるいは外来受診された結果から感染が疑われる場合には、帰国者・接触者外来等に紹介され、検体（検査の対象となる材料：痰、唾液、鼻咽頭拭い液など）を採取して、検査をするという流れになっています【図1】。

・PCR検査

新聞・テレビなどで「PCR検査」と連呼されていましたので、新型コロナウイルスならこの検査！と誰もがご存じだと思います。

【図1】検査の流れ

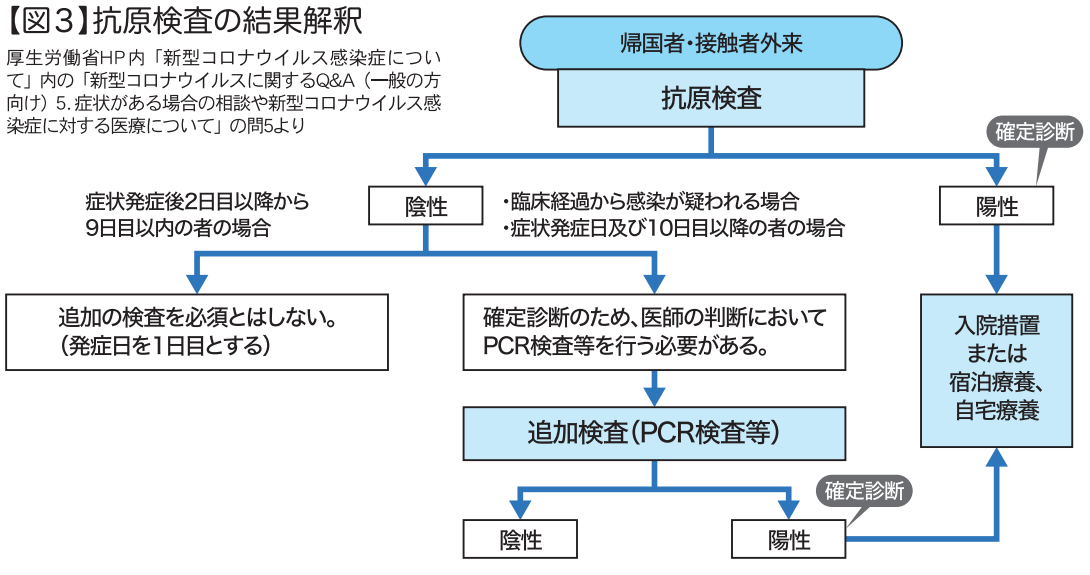


厚生労働省HP内「新型コロナウイルス感染症について」内の「新型コロナウイルスに関するQ&A（一般の方向け）5.症状がある場合の相談や新型コロナウイルス感染症に対する医療について」の問3より

【図2】現行の検査のまとめ

検査の対象者		PCR検査(LAMP法含む)		抗原検査(定量)		抗原検査(簡易キット)	
		鼻咽頭	唾液	鼻咽頭	唾液	鼻咽頭	唾液
有症状者（症状消退者含む）	発症から9日目以内	○	○	○	○	○(※1)	×(※2)
	発症から10日目以降	○	×	○	×	△(※3)	×(※2)
無症状者		○	○	○	○	×(※2)	×(※2)

※1：抗原検査（簡易キット）については、発症2日目から9日目以内
※2：検査メーカーにおいて有症状唾液については大学と共同研究中、無症状者については共同研究予定。
※3：使用可能だが、陰性の場合は鼻咽頭PCR検査を行う必要あり
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き（第3版）より

【図3】抗原検査の結果解釈

厚生労働省HP内「新型コロナウイルス感染症について」内の「新型コロナウイルスに関するQ&A（一般の方向け）5.症状がある場合の相談や新型コロナウイルス感染症に対する医療について」の問5より